

ちょっとおでかけ旅ガイド

いばらき
おいしい 
もの巡り

Ibaraki 1day Trip Guidebook

時代の普遍と
進化を求めて



県南

県南

見どころ

筑波山は、山そのものが神様
二つの峰の優しい形は永遠不変
そこからわずかなところにある科学の街
ロケットが横たわり、ロボットが歩道を歩く
すぐそこに、手が届く未来とはるかな永遠の歴史
霞ヶ浦から吹く風に耳を傾けてみましょう

※

平成28(2016)年2月末で調査した情報を掲載しています。
必ず最新情報をお確かめの上、ご利用ください。



常陽フォト
コンテスト

霞ヶ浦に映る 都市の躍動と 筑波山の普遍

関東平野のほぼあらゆる地点から眺めることができる筑波山。江戸時代、市中から眺めることができた筑波山は、江戸っ子からは、「西の富士山、東の筑波山」として人気で、江戸名所絵図などに数多く描かれてきました。

標高877mと高くないものの、関東平野に灯台のようにそびえる筑波山は茨城県南を語るときには欠かせません。女峰、男峰の双峰を水鏡に映すのが、霞ヶ浦。湖面の広さ全国2位を誇り、筑波山と霞ヶ浦の両エリアは、水郷筑波国定公園の指定を受けています。

県南は、都心から60km圏内に位置し、ほかの茨城県内のエリアに比べ首都・東京に近いのが大きな特徴です。筑波研究学園都市が建設され、つくばエクスプレス線の開通以降は、東京・秋葉原との間が最短45分で結ばれ、距離感により縮まりました。

都内へ通勤するための住宅開発は、高度経済成長期の昭和40年代から始まり、JR常磐線沿線の土浦駅、牛久駅、取手駅、また龍ヶ崎市の竜ヶ崎ニュータウンなどの開発により人口が増えてきました。現在では、つくばエクスプレス線沿線のつくば市やつくばみらい市、守谷市などで住宅が開発されています。



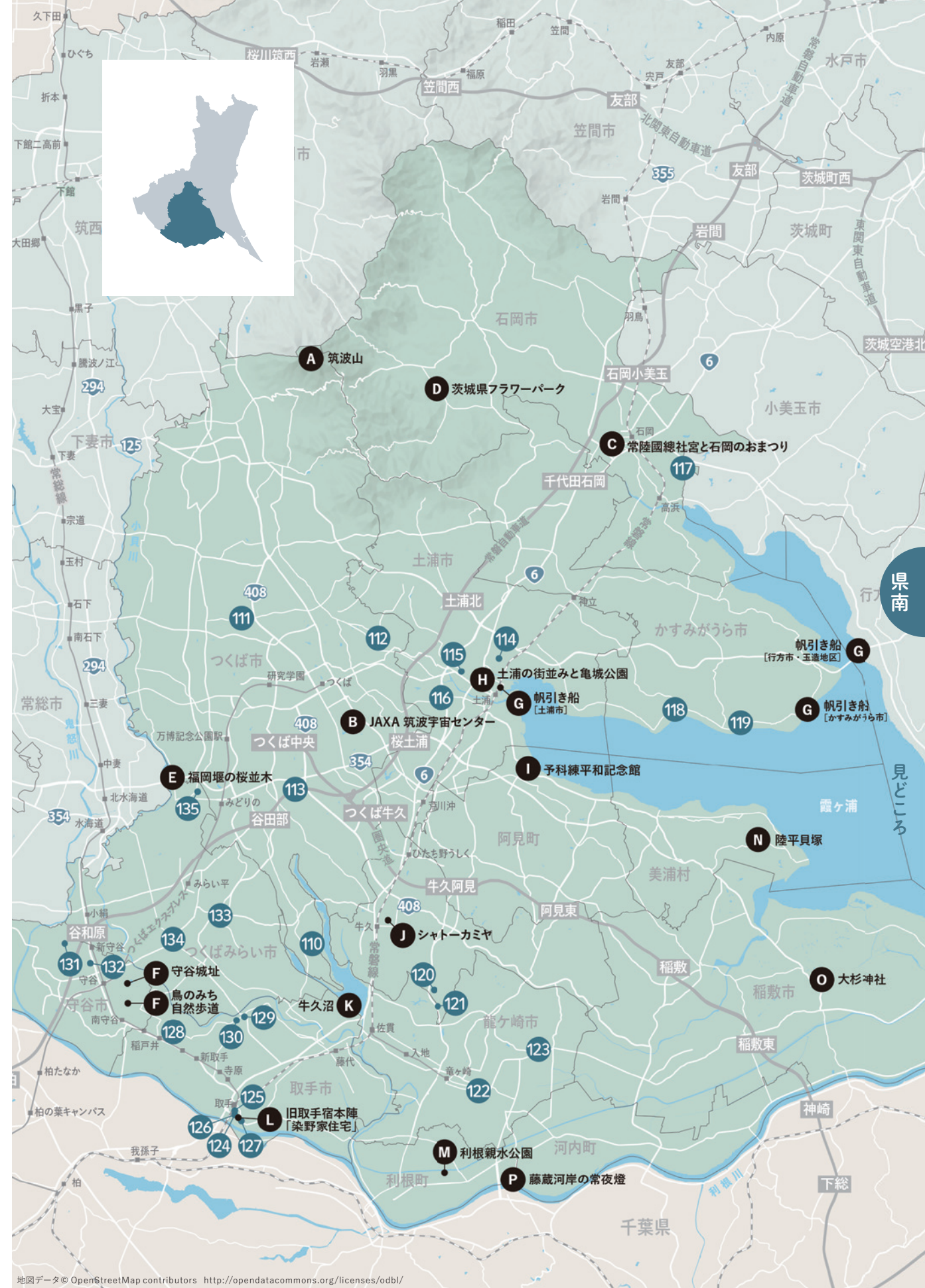
常陽フォト
コンテスト

県南

写真は「常陽フォトコンテスト」入賞作品

上：「夕照の帆引船」（霞ヶ浦、田井俊夫）

下：「まほろばの里」（石岡市 常陸風土記の丘、鈴木清貴）





上：4月、筑波山麓に懐かしい風景が広がる
下：中腹にある筑波山神社拝殿

A

関東平野に浮かぶ霊峰

筑波山

双峰として知られる筑波山。女体山標高877m、男体山871mとけっして高くはないものの、江戸時代から「西の富士山、東の筑波山」と崇められてきた霊峰です。山そのものがご神体で、男体山、女体山に本殿をまつり、弁慶の七戻り、母の胎内ぐりなどの巨岩・奇岩が数多く見られます。ケーブルカー、ロープウェイがあり、だれもが登ることができるお山として親しまれています。山麓にある江戸時代初期に開かれた参道「つくば道」は懐かしい里山の景観とともに脚光を集めています。

【**駅** つくばエクスプレス「つくば駅」から【中腹～山頂方面へは】 関鉄バス「直行筑波山シャトル」で50分【山麓方面へは】つくバス「北部シャトル」で40分 **📞** 029-869-8333 (つくば観光コンベンション協会)

B

本物の迫力にどきどき

JAXA 筑波宇宙センター

日本の宇宙開発拠点、JAXA 筑波宇宙センター。国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟の運用管制、宇宙飛行士の養成もここで行われています。展示館「スペースドーム」では人工衛星や「きぼう」の実物大模型、本物のロケットエンジンなどを展示。定期的な企画展も開催されます。施設内を見て回る「見学ツアー」も実施（要予約）。



つくば市千現2-1-1 **🚉** つくばエクスプレス「つくば駅」から関鉄バス「荒川沖駅」行き10分「物質・材料研究機構」下車、徒歩1分 **🕒** 10:00～17:00 **🎫** 月曜日（不定期）、年末年始（12/29～

1/3）、施設点検日 **🎫** 展示施設＝無料（予約不要）。見学ツアー＝有料（要予約、18歳未満は無料） **📞** 029-868-2023 <http://fanfun.jaxa.jp/visit/tsukuba/>



D

筑波山を望む花と緑の公園

茨城県 フラワーパーク

筑波山を望む約30haに広がる花と緑の公園。県花のバラが3万株植えられ、稀少品種などもあり目を楽しませてくれます。そのほかシャクヤク・ボタン、シャガ、ヤマユリの花などが四季折々に園内を美しく飾ります。フラワーパークのある石岡市八郷地区は、ゆるやかな丘に広がる田園風景が美しい里山。果樹園も多いので、一日ゆったり巡ってみるのもおすすめです。

石岡市下青柳200 **🚉** JR常磐線「石岡駅」1番バスのりばから「フラワーパーク」下車 **🕒** 9:00～17:00 (12月・1月＝～16:00) **🎫** 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始 **🎫** 【4～11月】大人740円、小人370円（土曜日190円）【12～3月、8月】大人370円、小人190円（土曜日100円） **📞** 0299-42-4111



C

山車と獅子が競演

ひたちのくにそうしやぐう

常陸國總社宮と石岡のおまつり

常陸国の国府があった石岡市。国府跡の近くにあるのが「常陸國總社宮」。創建は8世紀、天平年間といわれています。總社宮で9月に行われる「例大祭」は、市民が一致団結して行うことから「石岡のおまつり」といわれています。絢爛豪華な山車や勇壮な幌獅子などが3日間にわたって練り歩き、40万人以上

の人で賑わいます。市街地には、昭和レトロな看板建築が遺っています。

石岡駅～中心商店街全域 **🚉** JR常磐線「石岡駅」 **📅** 9月の「敬老の日」を最終日とする3連休 **📞** 0299-43-1111 (石岡市観光協会)



石岡市街地に見られる看板建築

F

市街地に遺る憩いの場

守谷城址と鳥のみち自然歩道

つくばエクスプレス沿線で住宅地開発が進む守谷市。市街地で身近な貴重な自然として市民に親しまれているのが、総延長2.5kmの自然歩道「鳥のみち」と「守谷野鳥の森散策路」。北相馬台地の斜面林とそれにつながる広大な湿地に、市民ボランティアや小中学生が利用者の視点で手づくり、管理しています。これにつながる守谷城址は、平将門創設との伝説もありますが、確かなところでは、その直系子孫といわれ中世を通して一帯を治めていた相馬氏による鎌倉時代の築城といわれます。江戸時代初期に、守谷藩初代藩主土岐氏の居城となり、5代続いたあと、廃藩となります。

守谷市本町地内 **🚉** 【守谷小学校前】つくばエクスプレス・関東鉄道常総線「守谷駅」東口から関東鉄道バス「取手

西口」行き、徒歩5分【南守谷駅】関東鉄道常総線「南守谷駅」から徒歩7分 **🕒** 夜間は立ち入り禁止 **🎫** 無料 **📞** 0297-45-1111内線262 (守谷市観光協会事務局)



E



用水に映える花の姿にうっとり 福岡堰の桜並木

ふくおかぎ 福岡堰は、小貝川の農業用の堰で、同じ小貝川の岡堰、豊田堰とともに関東三大堰に数えられています。約600本の桜が1.8kmにわたって植えられ、その美しさから付近一帯は茨城観光100選にも選定。桜の開花に合わせて、「福岡堰さくらまつり」が賑やかに開催されます。

つくばみらい市北山 **🚉** 【鉄道】つくばエクスプレス「みどりの駅」から関鉄バス「水海道駅」行き「水門」下車【車】常磐自動車道「谷和原IC」または「谷田部IC」から約15分

真っ白に広がった帆は
霞ヶ浦の風物詩

帆引き船

霞ヶ浦のワカサギ、シラウオを獲るために明治13(1880)年に、折本良平により考案された帆引き船。霞ヶ浦の風物詩として親しまれてきました。昭和40年頃から動力を利用するトロール船に取って替われ、漁船の役目を終えたものの、惜しむ声が多く、昭和46(1971)年に観光帆引き船として復活し、現在は夏から秋にかけて運航。帆引き船を観るには遊覧船がおすすめ。観光船の運航はかすみがうら市、土浦市、行方市の3市で行われています。

【かすみがうら市】

歩崎公園自由広場（かすみがうら市坂地内）
 大人2,000円、小人1,000円（未就学児無料）
 7月下旬～11月下旬の日曜日
 029-897-1111(かすみがうら市観光協会)

湖畔の城下町を探訪 土浦の街並みと 亀城公園

霞ヶ浦湖畔の街、土浦は江戸時代から明治・大正・昭和にかけて水郷として栄えてきました。中心市街地にある土浦城は、堀に浮かんだ様子が亀のように見えることから「亀城」と呼ばれました。土浦市博物館のある城跡を中心に、城周辺の街並みには見世蔵や町屋、寺院仏閣が遺り、散策が楽しめます。観光情報を発信しているアンテナショップ、まちかど蔵「大徳」はかつての呉服商の見世蔵。おなじく「野村」は商家で喫茶店として活用されています。

JR常磐線「土浦駅」西口から徒歩10分
 029-824-2810（土浦市観光協会）



【土浦市】

土浦港発（土浦市川口2）
 7月中旬～10月中旬
 【ホワイトアイリス号（ラクスマリナー）】
 大人1,540円、小人770円
 【ジェットホイルつくば号（常陽観光）】
 大人1,680円、小人840円
 029-824-2810(土浦市観光協会)



土浦まちかど蔵「大徳」



亀城公園

【行方市】

【麻生地区】天王崎観光交流センター「コテラス」1F
 【玉造地区】湖岸観光帆引き船事務所
 9月上旬～12月上旬の土・日曜日（麻生地区は、9月は日曜のみ）
 大人2,000円、小人1,000円（未就学児無料）
 [平日]0299-55-1221(行方市観光協会)

戦争に散った若い命の証 予科練平和記念館

土浦海軍航空隊が設置されていた隣地に、開設された記念館。戦争の兵器として航空機が注目され、その搭乗員養成のために設立されたのが、「海軍飛行予科練習生」で14歳から17歳位までの少年が主な対象でした。記念館は、予科練の史料ならびに戦争の推移とともに命を落とした若い搭乗員たちの姿を伝え、平和の尊さについて考えてもらおうというものです。

阿見町廻戸5-1 JR常磐線「土浦駅」から西口バス1番のりば関鉄バス「阿見中央公民館」行き、またはJRバス「江戸崎方面」行き15分、「阿見坂下」か「阿見」下車徒歩3分
 9:00～17:00（入館は～16:30）
 月曜日（祝日の場合は翌日）
 一般500円、小・中・高校生300円
 029-891-3344

明治時代のワイン醸造場 シャトーカミヤ



シャトーカミヤ本館（公開は2016年夏予定）

白鳥が泳ぐ龍ヶ崎の水辺 牛久沼

龍ヶ崎市北西部に位置し、全域が龍ヶ崎市内の牛久沼は、「うなぎ発祥の地」といわれます。沼を見渡せる国道6号線沿いには、うなぎ店が軒を連ねます。沼沿いにある牛久沼水辺公園は多くの市民をはじめ、近隣市町村民の憩いの場。公園には昭和38(1963)年に皇居のお堀から譲り受けた白鳥が優雅に泳ぐ姿が。空気が澄んだ冬には夕焼けに映える富士山を望むことができます。

龍ヶ崎市6号国道沿い JR常磐線「佐貫駅」から徒歩15分
 0297-60-1536(龍ヶ崎市市民生活部商工観光課)



長い間覆われていた幕が取り払われ、5年振りに煉瓦造りの城、シャトーがお目見え。平成23(2011)年3月11日の東日本大震災により甚大な被害を受けた国指定重要文化財のシャトーカミヤの旧事務室、旧醗酵室、旧貯蔵庫の3棟は、災害復旧工事、防災工事が平成28(2016)年3月末に終わり、同年夏に一般公開される予定です。事務室のある現・本館は、シャトーカミヤの正面に位置し、左右対称の堂々とした気品ある玄関口として来訪者を迎えます。醗酵室は現在、シャトーカミヤを設立した神谷傳兵衛の記念館。貯蔵庫は、レストランキャンオンとしてスーベルフレンチを提供。いずれも煉

水戸街道の名残を色濃く留める 旧取手宿本陣 「染野家住宅」

江戸時代、取手は水戸街道の宿場として栄えました。市街地はその名残を留めています。その中で、街道を行き来する大名が泊まった本陣として保存公開されているのが、染野家住宅です。染野家は、取手宿の名主を務め、主屋、土蔵、表門などがほぼ当時のまま残っています。水戸藩第2代藩主徳川光圀の時代に本陣に指定され、第9代藩主の斉昭、斉昭の息子で第15代将軍の慶喜らも利用。斉昭が本陣で詠んだとされる和歌が歌碑に刻まれています。現在の建物は寛政6(1794)年の火災の翌年に、表門は文化2(1805)年に再建されました。



神谷傳兵衛記念館（公開は2016年夏予定）

瓦建築で、軽井沢の旧・三笠ホテルを設計した岡田時太郎の設計。煉瓦の多くは地元の土で焼いたもの。明治36(1903)年、当時のお金で約30,000円の総工費をかけ完成した、わが国初の本格的ワイン醸造場。当時に思いを馳せながら、食事や地ビールを飲んだり、約60,000㎡の広大な敷地を散策できます。

牛久市中央3-20-1 JR常磐線「牛久駅」東口から徒歩8分
 【レストランキャンオン】11:30～15:00、17:00～21:00
 【オエノンミュージアム】10:00～17:00
 【スーベニアショップ&オエノンミュージアムショップ】10:00～18:00 ※本館、神谷傳兵衛記念館ほか施設はシャトーカミヤのホームページでご確認ください
 無休 029-873-3151(オエノングループ・シャトーカミヤ)



取手市取手2-16-41 JR常磐線「取手駅」東口から徒歩7分 ※駐車場20台
 金曜日～日曜日=10:00～16:00（入館は～15:30）
 年末年始 無料
 0297-73-2010(取手市教育委員会教育総務課埋蔵文化財センター)

古代ハスの香りにうっとり 利根親水公園

利根川に面する利根町は、柳田國男が思春期の2年間暮らし、柳田民俗学の形成に多大な影響を及ぼしたといわれます。利根川の本流に加え、江戸時代に開削された新利根川など、町内には四季折々にさまざまな水辺の景観が見られます。利根親水公園は、身近な自然と触れ合える場。園内の蓮池には約2,000年前の古代ハスが植えられ、毎年夏になると美しい花が池面を埋めるほど見事に咲き誇ります。

利根町中谷1628 国 JR常磐線「取手駅」から関東バス「立崎」行き「立木新田」下車、徒歩5分 ① 0297-68-2211 (利根町経済課)

利根川を舟が 行き来していた頃の灯台 藤蔵河岸の常夜燈

江戸時代、利根川沿いに河岸^{かし}が誕生。その一つが藤蔵河岸です。幕末の最盛期、藤蔵河岸には米^{こめ}などを運んだ高瀬舟が毎日30～40艘出入りしていたそうです。航海安全の神として信仰を集めた金毘羅大権現をまつた常夜燈は、夜間は火を灯し航路標識としても重要な役割を果たしていました。現在の常夜燈は明治21(1888)年に再々建されたもので、大正3(1914)年に利根川の改修によって現在地に移転しました。

河内町生板鍋子新田地先 国 関東鉄道竜ヶ崎線「竜ヶ崎駅」から車で約15分 ① 0297-84-2843 (河内町教育委員会事務局生涯学習グループ)



体験プログラムで 縄文時代を学べる

おかだいら

陸平貝塚

霞ヶ浦南岸に面する美浦村には、縄文時代の国指定史跡「陸平貝塚」があり、史跡公園として整備されています。貝塚の調査保存は、美浦村文化財センターにより行われ、文化財センターでは陸平貝塚をはじめ村内遺跡より出土した資料を展示。観るだけでなく体験を通して縄文時代の暮らしを学んでもらおうと、ハンズ・オン陸平としてプログラムを実施。秋には陸平縄文ムラまつりを開催。陸平をヨイショする会や文化財協力員が体験指導や陸平貝塚公園の案内をするなど、地域の人たちとともに事業を進めています。

美浦村土浦2359 国 圏央道「稲敷IC」から15分 国 9:00～17:00 休 月曜日 料 無料 ① 029-886-0291 (美浦村文化財センター)



あんばさまとして信仰を集める 大杉神社

ながれうみ

霞ヶ浦が流海^{ながれうみ}といわれていた時代、広大な湾に突き出した台地の高台に鎮座していた大杉神社。神護景雲元(767)年創始といわれ、「あんばさま」の名で親しまれ、倭大物主^{やまとのおおものぬし}櫛瓊玉大神を主祭神とし、海運を護る神として広く信仰を集めてきました。社殿に施された彫刻は見事で、正月の初詣や2月3日の節分祭には多くの参拝者が訪れます。また、日本唯一の夢むすび大明神ともいわれています。

稲敷市阿波958 国 JR成田線「佐原駅」から桜東バス「江戸崎」行き「阿波」下車。土日のみ「神崎駅」から直通バス運行。JR常磐線「土浦駅」からJRバス「江戸崎」行き、江戸崎で桜東バスに乗継「阿波」下車 国 8:30～ ① 029-894-2613